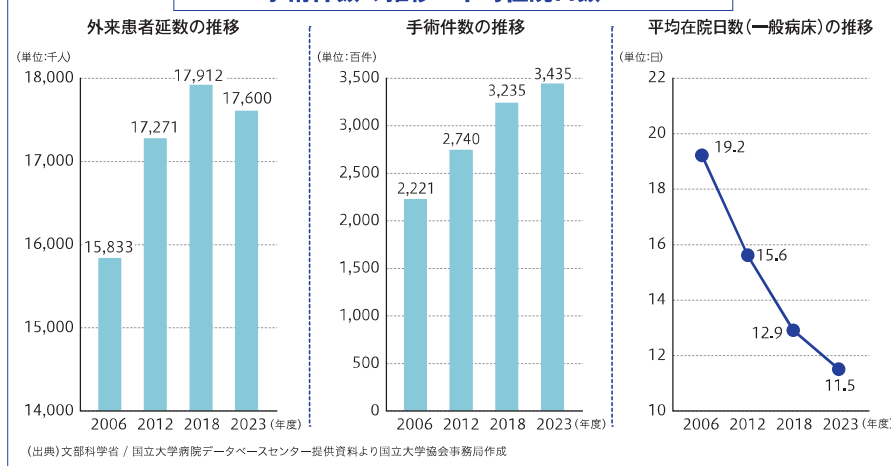


7. 附属病院

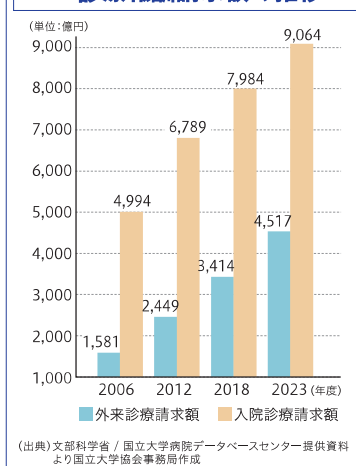
最先端医療の提供と地域医療の最後の砦

手術件数の増加及び平均在院日数の短縮等の経営努力により、診療報酬請求額の増加につながっている(7-1、7-2)。また、高度医療を提供する地域の中核病院として、特定機能病院の承認のほか、臨床・研究・災害支援など様々な指定を受けている(7-3、7-4)。一方、医療機器等設備の老朽化が進み、病院機能の低下が懸念される(7-5)。

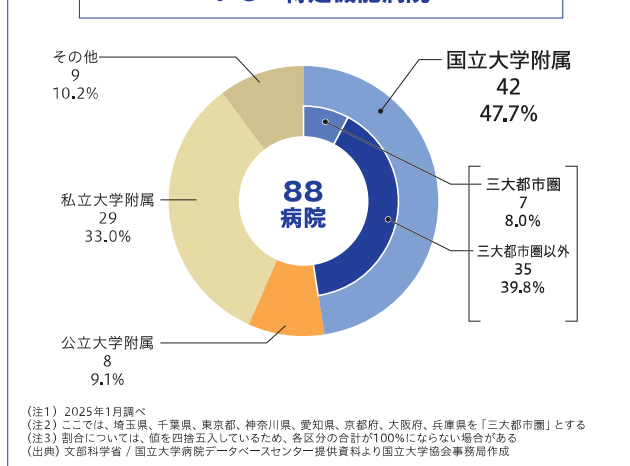
7-1 国立大学附属病院における外来患者延数・手術件数の推移・平均在院日数



7-2 国立大学附属病院における診療報酬請求額の推移



7-3 特定機能病院

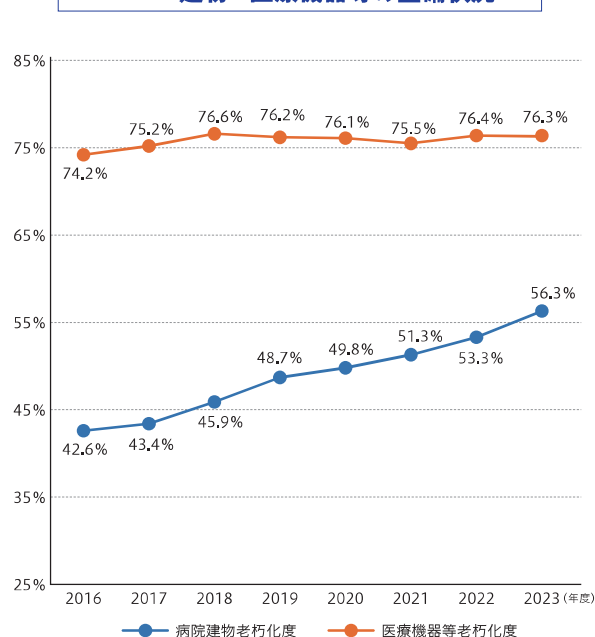


7-4 国立大学附属病院における政策医療指定状況

指定対象	機関数	指定率
がん診療連携拠点病院	42	100.0%
小児がん拠点病院	7	16.7%
がんゲノム医療(中核)拠点病院・連携病院	42	100.0%
高度救命救急センター	16	38.1%
救命救急センター	13	31.0%
災害拠点病院	38	90.5%
DMAT 指定医療機関	42	100.0%
原子力災害医療総合支援センター・拠点病院	21	50.0%
僻地医療拠点病院	4	9.5%
周産期母子医療センター	42	100.0%
エイズ治療拠点病院	42	100.0%
感染症指定医療機関	16	38.1%
臓器移植登録施設	39	92.9%
難病医療・診療拠点病院	35	83.3%
肝疾患診療連携拠点病院	35	83.3%
臨床研究中核病院	11	26.2%

(注1) 2025年2月現在 (注2) 対象: 42国立大学病院(医系本院)
(出典) 文部科学省 / 国立大学病院データベースセンター提供資料より国立大学協会事務局作成

7-5 国立大学附属病院における建物・医療機器等の整備状況



病院建物老朽化度 = 減価償却累計額(建物) / 取得原価(建物)
医療機器等老朽化度 = 原価償却累計額(機械装置、工具器具備品) / 取得原価(機械装置、工具器具備品)

医療機器の更新間隔に対する老朽化度の目安

老朽化度(目安)	更新間隔(耐用年数の○倍)
80.0	2倍
77.2	1.8倍
73.6	1.6倍
68.6	1.4倍
67.2	1.2倍
60.0	1倍(耐用年数)

(出典) 国立大学附属病院院長会議提供資料より国立大学協会事務局作成